

「静岡大学・浜松医科大学統合・再編促進期成同盟会」状況説明会

日時：2023年12月6日（水）午後6時～午後7時15分

場所：アクトシティ浜松コンgressセンター41会議室

1 開会

2 会長あいさつ

（中野祐介浜松市長）

皆様、こんばんは。浜松市長の中野でございます。本日は、静岡大学・浜松医科大学の統合・再編促進期成同盟会の会合に、年末何かとお忙しい中にもかかわらず皆様にお集まりをいただきました。本当にありがとうございます。

われわれが期成同盟会として、これまでずっと応援をしてまいりました両大学の統合・再編でありますけれども、今年の夏頃から、ご承知のとおり静岡大学の側で、これまでの合意と異なる再編案というものが検討されているという話が聞こえてまいりまして、われわれといたしましても、公式の場で、ぜひ事前にお話を伺いたいということをお願いしてきたわけでございます。

同じ思いで期成同盟会の会員の皆様からは、説明をいただきたいというようなお話もいただいておりますので、本日は当事者であります静岡大学、また浜松医科大学の皆様から、議論の動向、現状についてご報告をいただく、そんな機会を設けることとさせていただいたわけでございます。

この両大学の統合・再編問題、これは人口減少、とりわけ18歳人口の大きな減少を迎える中にありまして、大学の未来、大学の生き残りをかけた取り組みであるということ、これはもちろんのこと、今ここ浜松、そして静岡県全体において進んでおります人口の減少、とりわけ若者の減少、若者の流出を食い止める。そして全国から世界からここ静岡に集まって来ていただく、そういった意味でも非常に重要であります。

また、ヘルステック、DXをはじめとした新しい産業の展開においても、極めて重要な取り組みであります。言ってみればこの地域、それは浜松、遠州だけではなく、静岡というこの県全域の未来、そして生き残りをかけた重要な取り組みであると、われわれは思っていたわけでございます。そのような観点から、このように多くの皆様にお集まりをいただいて、両大学の統合・再編を後押ししようとして動いてきたわけでございます。

しかしながら、現在のところ両大学における議論、継続はしておりますけれども明確な進展は見られない。そういった状況が続いているわけでございます。われわれといたしましても地域未来創造会議という場を持っておりまして、再三にわたりまして状況の説明をお願いしてきたわけでございますけれども、残念ながらそれもかなわなかったというのがこれまでの現状でございます。

本日は、静岡大学日詰学長にもご出席をお願いし、残念ながらご出席はかなわなかったわけでございますけれども、静岡大学浜松キャンパスからは、福田工学部長、笹原情報学部長、木村電子工学研究所長にご出席をいただきました。また、浜松医大からは今野学長にお越しをいただいております。

本日この場におきまして、現在の状況を改めてご説明をいただきまして、われわれとしても期成同盟会の活動や今後の進め方について、またしっかりと考えていきたいと思っております。

いずれにしても、両大学の統合・再編に関わる課題と言いますのは、あまり悠長に時間をかけてはいられない、と言いますよりも、むしろ一刻の猶予もない、そのような状況に今あるのではないかと思っております。両大学の未来、そしてまた地域、静岡県全体の未来という観点からも、ぜひ 1 日も早い統合・再編に向けて、われわれとしてもしっかり後押しをしていきたいと思っております。

本日は、有意義な議論ができますことを期待いたしまして、開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 大学からの説明

(1)静岡大学浜松キャンパス

(福田充宏静岡大学工学部長)

4 月から工学部長になりました福田でございます。静岡大学浜松キャンパスを代表して、一言ごあいさつと現状についての説明をさせていただきます。

まず、中野浜松市長をはじめとする静岡大学・浜松医科大学統合・再編促進期成同盟会の皆様には、平素より静岡大学、とりわけ静岡大学浜松キャンパスにご支援をいただいていることに、改めて御礼申し上げます。特に、昨年は浜松キャンパス創立 100 周年記念にあたり多大なご支援を賜りましたこと、大変ありがとうございました。また、この度統合・再編をご支援くださるため、このような会合を開催していただき感謝申し上げます。

現在、学内で議論が進行中であるという理由で、本学の日詰学長は本日欠席いたしますけれども、学長はしかるべくタイミングで、しかるべき説明をするというふうに申しておりますので、また改めてご説明する機会を設けるものと思っております。したがって、静岡大学で進行中の議論については、われわれからも詳しくお話することはできません。この点は誠に申し訳なく思いますが、ご理解賜ればと思っております。

本日は、浜松キャンパスにある工学部、情報学部、電子工学研究所の 3 部局を代表して、浜松キャンパスの現状や、私たちが考えていることを中心に、説明させていただきたいと思っております。

浜松医科大学と静岡大学は、2019 年 3 月 29 日に国立大学法人静岡国立大学機構設立及び大学再編に関する合意書及び確認書を締結しており、その後も連携協議会や、その下に置かれた浜松・静岡それぞれの地区の大学運営検討専門委員会、各種ワーキングなど、さ

さまざまなレベルで統合・再編を進めるための準備にあたってきました。しかし、地元の理解が得られていないという理由により、2021年1月29日には統合・再編の延期が決定され、こんにちに至っております。

静岡大学では、2021年4月に学長が、当時合意書を交わした石井学長から現在の日詰学長に交代し、以降も両大学の連携協議会において、統合・再編の議論が進められてまいりました。しかしながら、学内においては合意書にある1法人2大学についての理解がなかなか進まず、延期から既に2年以上の月日が過ぎてしまいました。

浜松キャンパスの3部局、工学部、情報学部、電子工学研究所としては、一貫して浜松医科大学と静岡大学との統合・再編の実現を望んでおり、こんにちにおいても変わらず、浜松地区大学に設立される予定になっている、医・工・情が連携する新大学の設置を希望しております。

一方、静岡キャンパスの教員を中心に、静岡大学を2つに分けるのではなく、1つの総合大学を目指したいという要望が根強く、学内の意見が1本化できないまま浜松医科大学との統合・再編が滞っている現状には、私たちとしても忸怩たる思いがあります。

その中で、5月には学長から、静岡大学未来創成ビジョン、すなわち1大学2校案が提案されましたが、われわれは、このままでは静岡大学の名誉及び信用を大きく毀損する合意書の白紙撤回につながりかねないと危機感を持ち、今年10月には急ぎよ、浜松の3部局長として記者会見を開かせていただきました。その後、学内の評議会において、浜松キャンパスの反対を押し切る形で、1大学2校案を静岡大学の成案とすることが認められました。これについては、皆様も報道等でご存じのことと思います。

浜松医科大学と静岡大学の統合・再編は、静岡県内における2つの国立大学が連携することにより、法人としての財政基盤の強化、機能強化などを目指すもので、この統合・再編のチャンスを逃がすことは、静岡大学の発展のチャンスを大きく損失してしまうものであるだけでなく、浜松医科大学、また、浜松市や静岡県にとっても大きな損失になるのではないかと、私たちは大きな危機感を感じています。

1大学2校案については、ここで事細かに説明することはできませんけれども、私たちの考えでは、1大学2校案は浜松医科大学との合意書の内容とは大きく異なるものであり、私たち3部局長としては、合意書に従って1法人2大学を実現したいと考えています。

1法人2大学が実現すれば、浜松には医・工・情に特化した先鋭的な大学、ミッションオリエンテッドな大学を実現し、医・工・情の世界的な教育研究拠点を実現できると思っています。そのような世界的な研究拠点を、浜松医科大学と静岡大学が力を合わせて実現し、世界から優秀な人材をこの医・工・情拠点に集結させ、浜松から静岡県、日本、世界に飛躍する人材を育成するとともに、研究成果を世界に向けて発信していきたいと思っております。

そのような世界的な教育研究拠点を実現することが、静岡県はもとより日本全体に貢献する国立大学としての使命であると思っています。同時に、私たちとしては、浜松地区の

大学と静岡地区の大学それぞれが魅力ある大学として発展した上で、連携を強化していきたいと考えています。ぜひ、さらなるご支援、ご協力をお願いいたします。

先月から今月にかけて、日詰学長をはじめとする大学執行部が、各部局において説明会を開催し、工学部、情報学部においても説明会を行いました。工学部では、静岡大学の信用のために合意書どおりの統合・再編を望むといった声と同時に、この統合・再編問題をできるだけ早く解決してほしいといった意見が上がりました。

工学部では、前回の学部改組から既に10年が経過していますが、社会の変化に合わせて教育内容を見直し、産業界の要請に合わせた人材育成を行うために、現在、工学部の改組を検討しております。しかしながら、浜松医科大学との統合・再編への道筋が不透明であり、工学部の長期戦略の策定や、それに基づく改組や教育研究体制の検討なども影響を受けており、工学部の教員もかなり疲弊している状況です。

工学部としては、浜松医科大学との統合・再編が進まないこと自体が大きな損失であり、一刻も早く浜松医科大学との統合・再編を進め、魅力ある教育、人材育成を学生に提供したいと考えています。

また、女子学生の獲得や社会人に対する新たなリカレント、リスキリング教育の充実も重要な検討課題であり、本日お集まりの皆様からもご意見を伺いながら、今後ますます社会に貢献できる工学部となるように、努力してまいりたいと思っております。

最後になりますが、改めて中野市長、期成同盟会の設置にご尽力くださった鈴木康友前市長、そして期成同盟会にご賛同いただいている皆様に、心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

(笹原恵静岡大学情報学部長)

皆様、こんばんは。静岡大学情報学部長の笹原でございます。本日は、皆様大変お忙しい中このようにご参集くださり、浜松医科大学、静岡大学の統合・再編にご支援を賜りまして、大変ありがとうございます。心より御礼申し上げます。

先ほど浜松キャンパスの現状や私たちが考えていることについて、三部局長を代表して福田工学部長からご挨拶をさせていただきましたので、それで十分だとは思いますが、情報学部長としても皆様に一言、ご挨拶、ご説明をさせていただきたいと思えます。

情報学部は、1995年に設置された国立大学では初めて情報学を冠した学部です。昨今、デジタルトランスフォーメーションが社会的な課題とされておりますが、本学部は情報学を専門とする学部として、DXを推進する人材養成に努めてまいりました。

私たちの学部は3つの学科からなりますが、情報科学科では、革新的なIT技術を扱い、また行動情報学科では、これらを用いたサービス創出やマネジメントを扱い、そして情報社会学科では、人間と社会に焦点を当てた情報社会研究を行っております。幅広い視野から現代情報社会を豊かな人間性で結ばれた社会にするべく教育研究に努めてまいりました。

よく浜松キャンパスや、これから私たちがつくる浜松地区の新大学について、理工系大

学という位置付けをされますけれども、私たち情報学部には、文科系の教員を含む情報社会学科、行動情報学科もあり、文工融合を旨とする教育研究を行っていることも、改めてお伝えさせていただきたいと思います。

ますます進展する高度情報社会の中で、情報学部といたしましても浜松医科大学と静岡大学の再編・統合は必須であると考えております。再編を進め、浜松地区で医・工・情連携の尖鋭的な大学をつくる必要があると考えております。

少子化が一層進む中で、2大学として再編し、それぞれが切磋琢磨しつつこの地域において存在感のある大学として、若者に魅力を感じてもらえるような大学にしていきたいと同願っております。

医学・看護学・工学・情報学という学問領域は、いずれも私たちの人生を、そして社会をより良いものにすることを目指す、そういうものです。いかに身体の、そして精神の健康を維持、向上させるのか。いかに産業や社会、地域を支えるための工学的な、あるいは情報学的な技術を提供するのか。そして人間や社会に寄り添うことによって人々の暮らしをいかに豊かにするのか。

私たちそれぞれの学部は、それぞれの専門を極めていくことを非常に重要だと思っておりますが、視野を広げ、他者の視点や他の学問領域の特徴や強みを尊重しつつ、共に学びつつ、手を携えて進んで行くことこそが、浜松地区に設立する新大学の何よりの強み、魅力になると考えております。

期成同盟会にお集まりの皆様には、ぜひ今後ともさらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。簡単ではございますけれども、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は大変ありがとうございます。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

(木村雅和静岡大学電子工学研究所所長)

皆様、こんばんは。静岡大学電子工学研究所、所長の木村でございます。本日は、中野市長をはじめとする期成同盟会の皆様には、浜松医科大学様と静岡大学の統合・再編にご支援賜りまして、心から御礼申し上げます。皆様よりご支援いただいている静岡大学、特に浜松キャンパスの部局長の1人として、本日は期成同盟会に参加させていただきました。ありがとうございます。

静岡大学浜松キャンパスを代表して、福田工学部長、笹原情報学部長より、浜松キャンパスの現状と、浜松キャンパスの3部局長の考えていることの説明と補足がありましたけれども、電子工学研究所の所長として私からも一言、御礼とご挨拶を申し上げます。よろしく願いいたします。

静岡大学浜松キャンパスでは浜松光宣言のもと、浜松医科大学様との連携を強化して、2016年の文部科学省地域イノベーション・エコシステム形成プログラムの採択を受け、メディカルホトニクス先端研究と事業化を進め、地域の産学官で浜松にイノベーション・エコシステム創成の基礎を築いてまいりました。

2021年3月26日に閣議決定されている第6期の科学技術イノベーション基本計画においては、科学技術イノベーションを促進するために、いわゆる通常の学術振興アプローチによる多様な研究成果の創出や、未知の課題に挑戦する人材育成に加えて、ミッションオリエンテッドな研究開発の重要性というものが唱えられています。

わが国や世界が抱える感染症対策、少子高齢化、地球環境問題、防災、地方創生、食品ロス、資源エネルギー等の社会課題について、課題解決に向けた具体的なミッションを定めたさまざまな枠組みでの研究開発が、これから推進されようとしています。

今後の地方大学の生き残りとしては、ミッションオリエンテッドな研究への参画能力が、大きな決め手になると想定されています。浜松地区ではこれまで、医・工・情の連携を培ってきましたけれども、統合・再編によって浜松医科大学様と浜松キャンパスが1大学となるということにより、地域に築いてきたイノベーション・エコシステムの基礎の上に、ミッションオリエンテッドな研究開発を行う体制が容易に確立できるということを見通すことができます。そのためにも、浜松に医・工・情に特化した先鋭的な大学を創設し、医・工・情の世界的な研究拠点となることを、浜松医科大学様と静岡大学が力を合わせて目指して行くことが、今一番求められていることだと思います。

静岡大学電子工学研究所は、1926年の高柳健次郎先生のテレビジョンの発明を記念して1965年に設置されましたが、イメージングの分野で世界をリードする研究所です。電子工学研究所としても、浜松医科大学様と静岡大学の統合・再編を進め、浜松地区に医・工・情の先鋭的な大学をつくるということを切望しております。

皆様にはぜひ、さらなるご支援、ご協力を申し上げて、簡単ではございますけれども、私のご挨拶と御礼とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございます。よろしく願いいたします。

(2)浜松医科大学

(今野弘之浜松医科大学学長)

皆様、こんばんは。浜松医大の学長今野でございます。まずはこの度、中野市長及び浜松市のご尽力によりまして、第2回静岡大学・浜松医科大学統合・再編促進期成同盟会が開かれますこと、そしてまた、各界の重鎮の皆様、本当に師走のお忙しい中、この会にご臨席、またはオンラインでご参加いただけますこと、浜松医科大学を代表いたしまして、心から御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

ただ今、静岡大学浜松キャンパスの先生方から、大変力強い決意のほどが述べられ、そしてまた、新しい浜松地区大学の未来が述べられたわけでありまして、とても心強く思っております。

私は前回の期成同盟会におきまして、合意書に基づくこの構想の素晴らしさ、そして先鋭的な2大学の魅力、また、1つの法人として2つの大学を伸ばしていきながら、静岡県全域にわたりまして、地域貢献を果たすことを述べさせていただきました。本日は論点を絞

ってお話させていただきます。少し重なるところもございますけれども、最初に昨年 7 月以降の経緯について。2 点目といたしまして、2 大学案、2 再編大学案と 2 校案の根本的な違い。3 点目は、1 大学 2 校案と合意書との関係についてお話させていただきます。

最初に経緯でございます。令和 3 年 4 月に日誥学長が静岡大学の新学長に就任されて以来、合意書は尊重するとの見解を繰り返し説明されてまいりました。このため私たちは、構想に対する理解や進捗に差はあるものの、法人統合・大学再編という目標に向かって進んでいるものと認識しておりました。また、両大学の連携協議会におきましても、静岡大学からは、地域の理解を得るための新学部の設置や、学内に対する説明に時間を要するとの説明を受けてきたところでございます。

このような状況の中、昨年令和 4 年 7 月に浜松市主催の浜松地区大学・再編地域未来創造会議において日誥学長から、これまでのスタンスとは全く異なる「まず法人統合を実施し、その後、大学統合や大学再編を検討する」という法人統合先行案が私案の形で示され、われわれは大変な衝撃を受けました。さらにこの法人統合先行案の公表の後、9 日後に静岡大学 Web サイトに学長メッセージとして、最終的に大学統合を目指すという 1 法人 1 大学案が示されました。

これに対し本学は連携協議会において、1 法人 1 大学案は 1 法人 2 大学の合意前に、両校で十分検討を行った上で採用しなかった案であり、議論する余地のないものであることや、再編の意味について説明したところでございます。併せて広く一般の方にも、浜松地区新大学設置をはじめとする 1 法人 2 大学について理解を深めていただくためのシンポジウムを数回開催してまいりました。

浜松キャンパスの両学部長、電研所長からは、合意書どおりの大学再編を望むとの見解を公開され、前浜松市長からも 1 法人 1 大学案に対して厳しい批判がなされ、本期成同盟会の結成へとつながったことは、皆様よくご存じのとおりでございます。

その後、本年 3 月に開催された日誥学長と記者との懇談会の中では「大学再編では学内が 1 つになることが難しい」との理由から、モデルチェンジ案なる案を検討しているとの説明がございました。この時点では、モデルチェンジ案の具体的な内容については言及はありませんでしたが、4 カ月後の本年 7 月に、1 大学 2 校案として本学に提示がございました。

連携協議会では、本学は 1 大学 2 校案は合意書の範囲外であることや、浜松キャンパスの合意がないことなどから検討しないとお伝えしました。しかし、本年 10 月の静岡大学の学内会議で、日誥学長が「大学再編は受け入れられない。1 大学 2 校案を本学の成案としたい」との声明を発表し、本学が 1 大学 2 校案を受け入れないのであれば、合意書の白紙撤回も辞さないという趣旨の発言があったとのことであります。

このことを受け、10 月 16 日に浜松キャンパスが危機感を表明する記者会見を実施いたしました。この記者会見の翌々日 10 月 18 日には、静岡大学の教育研究評議会が開催され、会議は 6 時間におよび、最終的には反対意見を押し切る形で、合意が「白紙になるわけで

はない」という説明で白紙撤回が撤回された上で、1 大学 2 校案を静岡大学の成案にするとの了承を得たとのことです。

この状況を本学は大変危惧し、本学の役員会の議決を経て、静岡大学へ合意書の履行を求める文書を発出しております。文書では、合意書の履行はもとより、1 大学 2 校案は浜松キャンパスの合意や地域の理解を得ていない案であり、本学に提示することのないよう申し入れるとともに、再編により設置される浜松地区新大学は、1 大学 2 校案における浜松校ではなしえない、教育を中心とした明確なビジョンを示していることをお伝えしております。

その後、学外委員が過半数を占める静岡大学経営協議会において、複数の委員から「学内に十分説明することを求める」との意見が出されたため、役員会での 1 大学 2 校案の決定は先送りされ、静岡大学内で説明会を実施し、12 月下旬の役員会で正式決定を見込むとのことで、現在、各学部等に説明されているさなかであると承知いたしております。

以上が経緯のご説明でございます。

次に、2 大学案と 1 大学 2 校案の根本的な相違点についてご説明いたします。現在報道されております 1 大学 2 校案は、静岡大学未来創成ビジョンとしてまとめられています。根幹となる 1 大学 2 校制度は、静岡大学と本学を合併し 1 大学とした上、静岡校と浜松校の 2 組織を設定し、各校に対し教育研究に係る意思決定権限を大きく委譲し、スケールメリットと迅速性を両立する、とのことでございます。

しかし、1 大学 2 校案の静岡校、浜松校はいわゆるキャンパスであり、現在の国立大学法人法では、キャンパスには大学の教育研究に関する重要事項を審議するための教育研究評議会を置くことはできません。また、各校に例えば担当理事や校長、あるいはキャンパス長を置いたとしても、大学の長としての職務を行う権限は持てません。

一方、再編 2 大学では、国立大学法人法の別表に掲げる国立大学として、国立大学法人法の規定に基づき、大学総括理事を置くことができ、1 法人複数大学のこれまでの例では「学長」と呼称していますので、いわゆる学長を置くことができ、学校教育法に規定する大学の長としての職務を担うことができますし、大学ごとに大学の教育研究に関する重要事項を審議する機関として、1 法人 2 大学においては、教育研究評議会をそれぞれの大学に置くことができます。このように 1 大学 2 校案では、現行法令上は各校の独立性、自立性を担保する法的根拠はなく、再編 2 大学においては法的根拠を持って、地域ごとの独立的運営を担保することが可能であると本学では考えております。

再編 2 大学においては、スモールメリットを生かした迅速な意思決定や機動力のある大学として、それぞれが先鋭的な大学を目指し、1 つの法人の両輪として互いを高め合い両大学の発展を目指します。

静岡大学が総合大学としてこだわりを持つスケールメリットにつきましても、法人統合により 1 つの法人となることで 1 つの大学と同じスケールになるため、法人統合が成されれば、静岡国立大学機構として機動性、自立性に富んだ 2 大学を有するスケールメリット

も得ることができます。両大学はそれぞれの地域に拠点を有することで迅速な意思決定が可能となり、それぞれの強みを生かし、世界と勝負できる新たな法人が創設されることとなります。

最後に、1大学2校案と合意書との関係についてご説明申し上げます。本日の配布資料にあります合意書裏面をご覧くださいませでしょうか。確認書と書いてございますが、これは合意書締結日に交わされた確認書です。合意書と一体となっております。冒頭、両法人は国立大学法人静岡国立大学機構設立及び大学再編に関し、両法人の統合、新大学への再編後に、新法人の責任において対応すべき事項について、以下のとおり確認する、と明示されておまして、大学再編が大前提となっております。

もう一度合意書に戻っていただけますでしょうか。静岡大学は1大学2校案につきましては、2合意事項(6)に書かれてある「合意書の内容、解釈について疑義が生じた場合、あるいは意見の相違があった場合には、双方誠意を持って協議し解決するものとする」、と記載されている、いわゆる誠実協議条項に基づき、合意書の範囲内の提案であると説明されています。しかし、本学といたしましては、(6)の最初に書いてございます「両法人が法人の統合、大学再編に向けて誠意を持って取り組む」との前段の規定からも明らかなように、合意書に定める形態は1法人2大学であり、1大学2校案は当然、合意書の範囲外の提案であるとの認識であります。

また、本学では第三者の法律事務所にも見解を伺い、「この2合意事項(6)の規定は、合意書の内容、解釈について意見の相違があった場合に、双方の協議により解決すべきことを定めるものであるが、合意書に記載されていない事項を、合意書の内容として取り込む効果を有するとは解釈できず、合意書及び確認書が1法人2大学への再編を定めてあることが文言上明らかなため、この規定をもってしても、1法人1大学への再編が合意書の範囲内に含まれていると解釈することはできない」、との見解をいただいております。

浜松地区新大学につきましては、これまで4年以上実現に向けて検討を重ねてきており、現実的に各地域において機動的な活動を行うには、形式的な2校ではなく再編2大学が必須であると考えています。静岡大学の関係の皆様方におきましては、今一度再編2大学で共に未来を目指すチャンスをいただきたく切にお願い申し上げます、私からの報告とさせていただきます。

本日は少し長い時間になりました。説明させていただいて誠にありがとうございます。どうぞご支援のほど、よろしく願いいたします。以上でございます。

4 意見交換

(斉藤薫浜松商工会議所会頭)

まず浜松キャンパスの皆さんの意思が変わっていないことを確認できて、非常にうれしく思っております。一番当事者の浜松キャンパスの人たちの意思が変わっているようだ困りますので、ぜひともその意思を尊重していきたいと思っておりますので、頑張って私

たちも応援をしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

(御室健一郎浜松いわた信用金庫会長)

浜松いわた信用金庫会長の御室と申します。産業界にわれわれは身を置いているわけですが、大学のことというのは、ある意味では素人というか、ちょっとひとつ外から見ています。

経営としてもものを考えたときに、新しい医・工・情、こういう先鋭的なことに挑戦をしていくというのは、地域として非常に大事なことだと思ひますね。確かに、静岡側は今のみままで、本当に昔からの考え方をそのまま踏襲しているというような感じがして、果たして静岡県のこれからの育成、本当にこれで新しい人材を育成していくことができるのかという思ひがしております。

そういうことで、われわれ産業界からするときちんと常に前向きで、確かに若干いろいろあるかもしれませんが挑戦をしていく。こういうことがすごく大事なこと、そういう意味では、先ほど特に福田工学部長さん、非常に分かりやすくご説明いただいておりますけど、まさにそのとおりだと思ひまして、われわれとしても賛同して応援していきたいと思ひています。

医大の学長さんの話はもう当然でして、医大の学長さんがこの地域の新しい先鋭的な産業界を育成するんだ、人を育成するんだ。こういうことに対して非常に力強いお話をいただきましたけど、まさにそのとおりだと思ひますので、ぜひ皆さんも協力して、みんなでこの地域を盛り上げるために、あるいは静岡県をしっかりと盛り上げて行くために、われわれ心を1つにしてやっけて行ければと思ひております。よろしくお願ひいたします。

(大須賀正孝株式会社ハマキョウレックス会長)

ハマキョウレックスの大須賀でございます。今説明があつたとおり、私もそのとおりだと思ひます。大学という所は学生にいろいろ教えていくものであつて、物事というのは企業としても、会社で決めたことを簡単に変えることはできない。みんなで決めたものは、これは長い間をかけて1法人2大学ということ、一生懸命みんなで決めたときに、学長が代わつたら、これは違ふと言つてひっくり返すということは普通、常識ではない。学校で教えていくその大学がルール違反をしてしまうと、本当にメンツではなく、正しいものを正しくやっけていくことを教えることが大学だと思ひます。

私も、さつき皆さんがいろいろお話をされたことは、そのとおりである。やはりこれは正しいものを正しくやっけていって、全体として静岡県がこれをやっけて、やっぱり静岡のためによかつたという結果にするには、私はやはり言われたとおりのことが絶対正しいと思ひし、勝手にいろいろルールを変えるのではなく、決めたものに関してそこに肉付けをして、正しいものを正しく静岡県のために、この地域のためにぜひ頑張つていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

(影山剛士湖西市長)

湖西市です。前は確か議会でオンラインだったものですから、やっと対面で今日はありがとうございます。ご丁寧な説明もいただきまして、静大さんからも、浜松医大さんからもありがとうございました。

前も申し上げたかもしれませんが、湖西市としても当然今日、周辺自治体もたくさんいらっしゃるんですけども、やはりこれまでも新しい大学といいますか、新しい挑戦に対して期待をして応援をしてくれています。先ほども説明があったとおり医・工・情報、文工融合のお話もありましたし、こういった先鋭的なもの、イノベーションを生み出して多様な人材が日本全国だったり、世界から集まったり、世界と戦っていくという、とんがった形でやっていくんだというものを、われわれは当然、浜松、静岡全体がよくなるんだということで応援をさせていただいています。

一番危惧しているのは時間の問題というか、時間の件ですね。別の例を出して恐縮ですけども、東工大さんと医科歯科大さんが後から来て、今や残念ながら先に行ってしまったというものを、見たままに時を過ぎざるを得ないというのは非常に残念に思っています。われわれは地方として、静岡全体が地盤沈下してしまうというのを非常に危惧しておりますので、いままさに浜松としておっしゃったことはそのとおりだというふうに、合意書もあるわけですし、これをやっていくということを期待して応援していきたいと思っています。

1つだけ、本当は日詰学長がいらっしゃったら言うべきかなと思ったのですが、あえて申し上げるとすれば、北風と太陽ではないですけども、こうだというのだけでは、静岡がああやって殻に閉じこもってしまうと進まないということを、大変われわれは危惧しているので、この合意書は合意書でももちろん進めるのですが、合意書に沿いつつ例えば静岡地区側がよくなるような、例としていいのか悪いのか分かりませんが、地区には静岡県立大だとかいろんな大学がありますので、そういったものも含めてやっていただくと。これは一緒に汗をかきながら、向こうに漣（しょうよう）していくという形でもいいと思いますから、なんとか今の合意に基づいたものを前に進めて行く。もちろん静岡大のさっきの案ではなくて、オプションとして地区として、静岡全体がよくなるというようなものを提供しながら一緒に汗をかいていけたらなと思っています。ぜひよろしく願いいたします。

(鈴木康友浜松医科大学顧問)

浜松医科大学の顧問で前市長の鈴木康友でございます。私からは2点発言をしたいと思っています。1つは、今回これだけこの大学の再編問題が混迷を深めている1つの大きな要因が、私はやはり静岡キャンパス側に未来ビジョンがないということが大きいと思います。私が在任中にも日詰学長には、浜松キャンパス、あるいは医大側はこれだけの明確な将来ビジ

ョン、将来構想を持っているんだから、静岡キャンパスの未来ビジョンをぜひつくって、それをお示しいただきたいということを何度かお願いをしたのですけれども、残念ながらそれはご提示いただけませんでした。

そして今、影山市長からもお話がありましたけれども、実は私は非公式に日詰学長にはこんな提案をいたしました。影山市長からも名前が出ましたけれども、静岡には静岡県立大学という素晴らしい大学があります。しかし、これからの人口減少下における大学を取り巻く厳しい環境下において、県大も単独で生き残っていくということは、大変厳しい時代が来ると思います。

県立大学には薬学部と食物学部という素晴らしい学部があります。そして静岡キャンパスには理学部、農学部があります。ここを統合することによって、この相乗効果によって静岡の拠点の大学は創薬、いわゆる薬の開発拠点、あるいはバイオ、あるいはサプリの開発拠点、こういうものにしていったらどうだろうか。

実は静岡の周りには多くの製薬会社がございますし、静岡県を医療ビジネスの一大拠点にするというのが、県の大きな成長戦略であります。そうしますと、静岡が創薬、あるいはバイオ、あるいはサプリの開発拠点となり、浜松のこの拠点が医工連携のもとに、新しい医療システムや、新しい医療機器の開発拠点になれば、静岡県の成長戦略を支える 2 つの核ができると思います。

このことを私は非公式ながら、日詰学長には提案をしまして、このことを前静岡の市長であります田辺さんにも提示をしました。田辺さんは「素晴らしい構想だ」とおっしゃってくれました。私は田辺さんからこれを、静岡の市長としてぜひ発信をしていただきたいをお願いをしましたけれども、残念ながら発信をされることはありませんでした。

私はやはり静岡に明確な将来構想、将来ビジョンがないということが、ここまで混迷を深くした大きな原因の 1 つではないかと思っています。そこをぜひ、先ほど影山市長から、みんなで支えようじゃないかという話もございました。当然私も汗をかいていいと思いませんけれども、ぜひそれをお願いしたい。

もう 1 つは、先ほど浜松キャンパスの 3 先生が明確に、この統合・再編について意思を発表されました。この浜松キャンパスの意思を無視して、新たな方針が静岡大学の成案として出てくること。これはあってはならないことだと思います。浜松キャンパスも大事な静岡大学の拠点でございます。

聞くところによりますと、これまで浜松キャンパスからのいろんな提案、意思是、ほとんど静岡側に採用されなかったと。すべて静岡の方針が告げられて、そのとおりに運営されると。これは、言葉は悪いですけど、私は植民地支配だと思います。植民地支配であれば、私は自主、独立をする道をたどるべきだというふうに思います。

現実的にも今、静岡キャンパスと浜松キャンパスは 100 キロ離れています。浜松キャンパスの子供たちは 4 年間、教養課程も含めてこの浜松で学ぶわけです。実質的にはもう既に 2 つの大学と言っても過言ではありません。こうした現実を無視して、いつまでも今の

総合大学の形だけにこだわると、これはもう将来に大きな私は禍根を残すことになると思っています。

私は今、新たにコンサルティングの会社を設立しまして、ベンチャー企業さん、あるいはスタートアップが顧客先で結構いるのですけれども、こういう社長さんに今回の医工連携のお話をしますと、素晴らしい構想だと、これはこれからの日本の成長戦略にとって、欠くことのできない取り組みだと皆さんおっしゃっています。なぜこれが実現できないのか不思議ではないと。

私の友人であります自民党の政調会長の萩生田さんは文科大臣のときに、このお話を応援してくれということでお話に行ったときに、これを反対するというのは理由が分からない、康友さん、何でこれが実現できないんだ何で反対するんだと言っていました。山本先生もご同席いただきまして、聞いていただいていると思いますけれども、これが私は世間の常識だと思っています。これは浜松だけの問題、静岡県だけの問題ではなくて、これからの日本の成長戦略に向けて、医工連携というのは絶対に必要欠かざるべきものだと思います。

これからまだまだこの混迷、すぐに解決できないかもしれませんが、できるだけ早くこのトンネルから抜け出して、この構想を実現をしていきたい。私も自分のネットワークを含めて、あらゆる力を総力をあげて、この構想の実現に向けてこれからもやり続けることを誓いまして、私からの発言とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(草地博昭磐田市長)

磐田市長の草地でございます。私も前回出席できなかったものですから、今日こうして、改めて皆さんそろった中で、それぞれのお立場からの思いを聞くことができ大変参考になりましたし、自分の中でも思いを強くしたところでございます。

今日改めて確認できたことは、やはりメディアの皆さんの伝え方がというわけではないですが、まず1つは、静岡大学対浜松医科大学がどうも争っているように見受けられる。そうではなくて、静岡大学の浜松キャンパスもこの1法人2大学に賛成している。むしろそこを強く押し出したいということを、今日明確に3人のお言葉で説明をしていただきましたから、静大対浜松医大の争いではないということは、多くの皆さんに知っていただく必要があるんだろうと思っています。

もう1つ、今日たまたま遠州の首長として出席をしているわけではありますが、この期成同盟会の中には、遠州地域以外の静岡県内他市のご出席もいただいているわけがあります。よってこれは静岡対浜松の戦いみたいなふうにもとられがちなのですが、全くそういう話ではなくて、静岡県、日本の未来をどうつくっていくのか、そのために必要な大学は、アカデミックな場所はどういう場所なんだということを、今議論をしているわけであって、今日は改めてそういったことが確認できてよかったなと感じた次第でございます。それか

ら先ほど来、影山市長、康友さんの話を聞いておまして、磐田市には2020年の4月に県立農林環境専門職大学という学校を県の方で新しく設立をしていただきました。この前身は何かというと、静岡大学農学部が1950年代まであった所に、その後を引き継いで県が農林大学校を維持してきて、それが2020年に農林環境専門職大学ということで新しく立ち上がったわけでありまして。

県もそういう意味では、全国で初めての農林環境専門職大学というものを立ち上げたわけで、エッジが利いているからこそ人が集まって来るということを私も思っていますし、ぜひ医工連携の学生はエッジが利いた学生たち、今までのトレンドとは違うことを学びたい、そして違う社会をつくりたいんだという学生たち、高校生たちに刺さるような、そういう学校をつくっていききたいと、私も強く思っておりますので、今日の話聞いて大変参考になりました。協力できることは頑張っけていききたいと思っております。ありがとうございました。

(岩田立男浜松工業会会長)

浜松キャンパスの同窓会であります浜松工業会といたしましては、本件合意書、確認書につきまして、ちょうど1年ほど前に臨時総会を開きまして、本件を支持するということを決議しておまして、最近では、とにかく関係者の早期話し合いをということで今望んでいるところです。浜松キャンパス同窓会は4万人強おまして、ぜひとも本件の進行を望みます。以上です。

(戸田誠浜松市議会議員)

浜松市議会議員の戸田です。よろしくお願いたします。先ほど来からお話を聞いておまして、本当にこの大学再編が、浜松だけでなく静岡県、そして日本に大いに役立つんだらうなということを感じさせていただいたと思います。世界的な研究の拠点というこの言葉が、われわれの未来を示していただいているなと思っています。これはわれわれだけでなく、若者にとっても夢がある言葉であらうと、今日改めて再認識させていただきました。

この世界的な研究ができればイノベーションが起こり、いろいろな産業が興ってくる。これが世界との戦いにつながっていくんだらうと思っておりますし、若者にとってはそういう場で研究ができる、学べるということは大変重要なことだらうと思うと、この議論が長引くことがわれわれにとって、日本にとって負の財産になると思う。何とかどこかに着地点を見いだせないものかと考えます。

議会としても、一浜松市民、そして一県民としても、ぜひこの議論がどんどん加速して、結論が出ることを期待したいと思っております。

(滝浪實浜松市医師会会長)

浜松市医師会会長、そして浜松医科大学同窓会である松門会の会長の滝浪でございます。今日は両校の専門の先生方にいろいろご説明いただき、本当にわくわく、うきうきするような気持ちでございます。一番最初にこの会が始まったとき、この話が出てきたときに、私は昔、心臓血管外科をやっていましたけれども、医学だけでは到達できない部分が工学系のものである、光である、それから情報によってここ 50 年ですごく進んで来ています。しかも、救われない命があつという間に救われて、日常生活に戻れるような状況になっております。

それをつくるために医師は日々研鑽をしておりますけれども、その研鑽に関して、1色ではなく、いろいろな色を持った医師の形成というのが、非常に重要と思っています。今回のこの静岡大学浜松キャンパスの皆様方のご説明をいただき、本当にこれをぜひぜひ若者たちに即伝えていただきたいと思っております。

またこの形勢を成すことによって、すかさず静岡県のみならず全世界に、この大学の卒業生が活躍できる場ができますように、ぜひ応援させていただきたいと思えます。

今日はマスコミの方がいらっしゃいますけれども、これを聞いた子供たちがどんなにわくわくするかというのが、私としてはすごく期待するところです。ぜひ早期に、来年でも入学生を受け付けますぐらいの勢いで成立させていただきたいと思えます。

本当に地元の皆様方の応援を受けてやっていることだと思えますが、私、卒業生としても、同じ職種としても、やはり応援を受けてありがたいと思えますし、ぜひ日誌先生にも応援していただきたいです。これに関してですね。この話を聞いて応援しない人はいないと思えますので、ぜひ応援していただきたい。ご理解いただきたいと思えますので、皆様方のことを地元でも応援させていただきます。

(長谷川寛彦菊川市長)

菊川市長の長谷川でございます。一番最初に会長の中野浜松市長からも話があったと思えます。人口減少の話が少し出たと思えます。本当にこの 50 年の間に日本の人口が 3 割減るといわれている中で、静岡県の人口は 380 万弱から 357 万、去年は 2 万 5,000 人、日本人のみでいえば 3 万 3,000 人減っているという状況の中、進学や就職のタイミングで若者が流出するというためにも、県外から若者を呼び込むためにも、魅力ある大学の存在というのは、静岡県にとって本当に絶対に必要なものだと思います。多くの人が魅力を感じる大学になってもらいたいと思うところです。

(大場規之袋井市長)

皆様、こんばんは。袋井市の袋井でございます。本日はオンラインで参加をさせていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

今日は大変貴重な情報、ご意見をいただきまして本当に勉強にもなりましたし、この地域の今後ということに対して、大変明るい未来を感じました。

私は市長にならせていただいて 2 年半が経過いたしましたけれども、市長になる前に教育関係の仕事をしておりました。その中の 1 つで留学生を送り出す仕事をしておりました。高校から大学ということで、世界の大学に生徒を送り出しましたけれども、その仕事をす
る中で、世界の大学が大学の生き残りのためにいかに努力をしているかというのを、本当に身をもって感じてまいりました。世界のトップレベルの大学が、さらにしのぎを削っている。そして世界から学生を集める。そしてその国に貢献し、地域に貢献するということ
を本当に目の当たりにして、日本の大学もそうしていかないと、世界の競争に乗り遅れるし勝っていけない。それは国力にも影響するということで感じてまいりました。

先ほどからお話をお伺いしておまして、医、そして工、そして情の連携による魅力をいかに伸ばしていくかという、新しい浜松地区の大学構想、これに関して本当に魅力を感じました。そうした強みを武器にして、この地域の大学としての生き残りを図っていく。本当に大事なことだと思います。

そして鈴木顧問のおっしゃった、静岡地区は静岡地区で魅力を出して生き残りを図っていく。こうした構想がいい形で実現していくことが、現在の静岡にある大学が未来に向けて静岡を、そしてそれぞれの地域、経済を活性化していく本当に特効薬になるんだろうと思っております。

先ほど大学、国、そして地域の連携を申し上げましたけれども、私ども袋井といたしましても、その地区を担う 1 つの基礎自治体として、この地域の大学が力を発揮していただくことを、本当に切に願っているところでございまして、今回のもともとの構想から出来上がりました、この 2 校それぞれの特色を生かして伸びていくということが、実現することを切に願っております。私どもも精いっぱい努力をしていきたいと思っておりますので、皆さん力を合わせて頑張ってみましょう。よろしく申し上げます。

(柳澤重夫御前崎市長)

御前崎の柳澤です。この期成同盟会が発足する前に、今野学長と康友市長が来庁しまして、この医療・工学・情報の統合につきまして、熱い思いでお話を伺いました。そしてそれに賛同して、この期成同盟会にも参加させていただきました。今皆様からのさまざまな熱い思いをお聞きしまして、改めてこの重要性について実感をしたところであります。

先ほど今野学長から、合意事項の 6 番目を誠意を持って取り組むという話がたびたびありましたが、まさにこの誠意こそが、誠実ですね、こういったものが人間、人にとって一番大切なものであると思っておりますので、これからも誠意を持って、また誠実にこれが前進できるように、皆さんで取り組んでいただきたいと思います。ぜひとも応援をさせていただきます。ありがとうございました。

(中野祐介浜松市長)

今日は短い時間ではございましたけれども、両大学から大変重要な情報提供をいただき、

またお集まりの皆様から非常に熱い思い、活発な議論をいただいたということで、大変有意義な会になったと思っております。誠にありがとうございました。

今日の議論でも明らかになりましたのは、そもそものこの両大学の統合・再編の目的、理念に立ち返っても、新しい大学が地域にとって必要であるということ、そしてまた、それに対する地域の皆さんの熱い思いを、改めて確認できたということだと思っております。

一方で、この大学統合・再編については、合意書に基づく統合・再編がわれわれにとっても改めてベストだということを感じたところでございます。今、静岡大学静岡キャンパスを中心にご議論、ご提案があらうかというような状況になっております。新しい案、これが果たして、今進めようとしている合意書に基づく再編、これを上回る効果が、成果が現れるものなのかどうなのか。どうしても今日の議論を聞いていても分からないところがあるわけでありまして、改めまして、学長をはじめ関係者の皆様には、公式の場でお考えになっていることを説明いただきたいと思ったところでございます。

いずれにしましても、この両大学の統合・再編問題は地域、地域というのは浜松だけではなく、静岡県という地域全体にとっても避けては通れないと言いますか、必ず必要となることでありますし、それがまた日本にとっても必要なことだと思っております。

静岡との地域間対立ということも言われるわけでありましてけれども、決してそのような思いを持って進めているわけではございません。これは静岡にとって、そして日本にとって必要なことだという思いを新たにされたわけでありまして、この期成同盟会としては、引き続き今進められております合意書に基づく統合・再編を強く後押しする、それによってこの地域の未来、日本の未来をつくっていきたいと思ったところでございます。

これからもしっかりと活動していきたいと思っておりますので、両大学の皆様にはますますこの議論を進めていただきますとともに、お集まりいただいております皆様、そして多くの期成同盟会関係者の皆様の引き続きのご支援をいただきますよう、改めましてお願いをいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

5 閉会

(終了)